

ボローニャ大学協定留学 月例報告書（7月）

芸術文化学科4年 土居優莉

Buongiorno!

Buongiorno. 芸術文化学科4年の土居優莉です。私がボローニャで過ごす最後の月になりました。やり残したことがないように最後まで忙しい毎日を送っています。ラヴェンナという街を訪れ、見てみたかったモザイクをたくさん見ることができました。小さなかけらがびっしりと敷き詰められた壁や天井の装飾は、写真では伝わらないとても繊細なものでした。また、ヴェネツィアングラスの工房がたくさんあるヴェネツィアのムラーノ島も訪れました。工房では実際にガラス製品を手作りしているところを見学することができました。



↑ ガラス工房で作業するようす

友だちとお別れ

最近、毎日たくさんの友だちとお別れをしなければならないので寂しい気持ちでいっぱいです。毎日大学に行くのが楽しいと思えたのも、イタリアで過ごす日々が充実していたのもすべて、出会ってくれた友だちのおかげです。ボローニャに来てすぐの頃に語学学校で知り合ってからずっと仲良くしてくれた友だちとは、最後にボローニャの街を散歩しながら思い出巡りをしました。大学の授業で知り合った大学院2年生のクラスのみんなどは、夕方に集まってアペリティーボをしたり、丘の上までハイキングをしてボローニャの街を高いところから眺めにいきました。ほかにもフィレンツェに住む友だちのところに行って大好きな Pici というトスカーナ地方のパスタを食べたり、日本料理を振る舞ったりと毎日誰かとお別れする日々でした。留学が始まる前からたくさんの友だちをつくって、たくさんイタリア語を話したいと思っていたのですが、帰国の頃になると、もっとそれ以上の、別れるのが寂しくて泣いてしまうくらいに大切な友だちがたくさんできたことに気がつきました。日本に帰ったあとも連絡を取り合っていていつかまた、イタリアでも日本でも世界中のどこかで再開できると嬉しいです。



↑おうちアペリティーボ



↑トスカーナの Pasta pici

とを意識して、大学もそれ以外の時間も、家でハウスメイトと過ごす時間も、自分の力ですべてを楽しい方に持っていくことができたことには達成感を感じています。とはいえ、自分ひとりでは実現しなかったこの留学を叶え、そして無事に終えることができた今、たくさんの人への感謝の気持ちでいっぱいです。これからの時間は1年間で学んだことをじっくり考える時間にしたと思います。本当に1年間ありがとうございました。



↑丘の上からみたボローニャ

おわりに

2022年の8月末から始まったボローニャ留学が終わりました。想像していたよりもずっと多くの友だちに恵まれ、本当に楽しいことが盛りだくさんな1年間でした。しかしそれと同じくらい大変なこともありました。朝起きてから夜寝るまでの毎日を繰り返すだけでもわからないことばかりで心が疲れてしまうし、みんなが話すナチュラルなイタリア語にはもちろんついていけないしで、初めはつまづくことも多々ありました。それでも毎日少しずつでも前に進むこ